

「人の活躍」ワーキンググループ

学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢

小林 りん

本日の骨子

1. 30年後の世界に備えるISAKの取り組み
2. ISAKは「量産」できるか
3. 具体的な提言

1. 30年後の世界に備えるISAKの取り組み

30年後の世界特徴①

科学技術の進歩が著しく、
単純労働はテクノロジーによって
代替される時代に

30年後の世界特徴②

変化のスピードがより早くなり、
人は会社だけでなく職業も
変わるような時代に

30年後の世界特徴③

国内外で外国人と働く機会が増え
多様なバックグラウンドの人と
協働する時代に

必要な「3つの力」

イノベーション/ クリエイティビティ

- ・スタンフォード大学で開発されたチームでのクリエイティビティの訓練
- ・全寮制の枠組みを活用した「自らイノベーションを起こす」練習
- ・プロジェクトを活用した実践の場の提供

リスクテイク/新たなことに意欲をもって挑む姿勢

- ・全寮制の環境下、生徒が寮などを運営
- ・教員もリスク・テイクを評価される人事制度

多様な価値観への寛容力 + 英語は必須

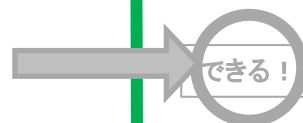
- ・全面9月入学、海外生70%、奨学生50%
- ・国際バカロレア全科目を英語で習得
- ・90%の教員は外国人

実は、ISAKは現行の制度で作れました

ISAKがやりたかったこと

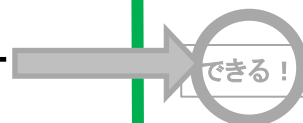
制度

・授業は全て英語



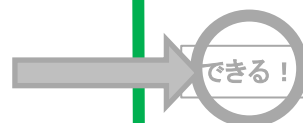
特例校指定制度

・外国人教員への免許の授与



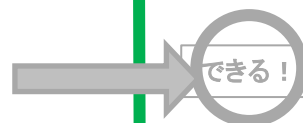
長野県の理解あるご対応
で特別免許を授与

・全面9月入学



「単位制高校」制度

・国際バカロレア(IB)の導入



学習指導要領は意外と
柔軟

2.ISAKは「量産」できるのか？

制度よりも、重要なのは**人**！

- ① 前述の「3つの力」※を体現していて
- ② 英語で授業ができる先生
がいなくては
いくら体裁だけ整えても効果は...？

※①クリエイティビティ、②リスクテイキング、③多様性への寛容力
(3ページ目の右側をご参照ください)

「生徒になって欲しい人材像」=教師陣



数学教育のプロであり、MIT、スタンフォード大学などで Best teaching Award を受賞。ペレア大学学士、デューク大学大学院修士。



カナダの名門ブリティッシュ・コロンビア大学で化学の博士課程に在籍中、教員の道を目指す。化学や学習科学の最先端の研究成果を反映し、知的好奇心と創造力を育てる新しい科学教育を実践



米の名門全寮制高校において30年間社会科の教員として活躍。大学レベルの国際交渉や歴史学を教え、柔軟な思考力を育てるカリキュラムを開発。ダートマス大学学士、マサチューセッツ大学修士。



米の名門全寮制高校などで25年以上、脳科学の研究成果に基づき、高校生に心の成長とリーダーシップを教えるプロフェッショナルとして活躍。Williams College 学士、State University of New York at New Paltz 大学院修士。



シンガポールと米国で育ち、世界各地で教鞭をとる。生物学に社会的な観点を組み合わせた独自の授業を開発。マカレスター大学学士、ハーバード教育大学院修士。

時代が必要とする「3つの力」

イノベーティブな授業

専門分野や学習科学を常に研究し、進化させ続ける

リーダーシップ・スキル/ 人間性

教科指導だけでなく先生自身がリーダーとしてのロールモデル

多様性への寛容力+英語力

世界各地で多様な背景を持つ同僚や生徒と学び働いた経験

3.具体的な提言

- ①＜短期＞3つの力を備えた
外国人教員の招聘
- ②＜中長期＞日本国内から人を募り
「マスターティーチャー」を養成

提言①: <短期> 3つの力を備えた外国人教員の招聘

障壁となりうるもの

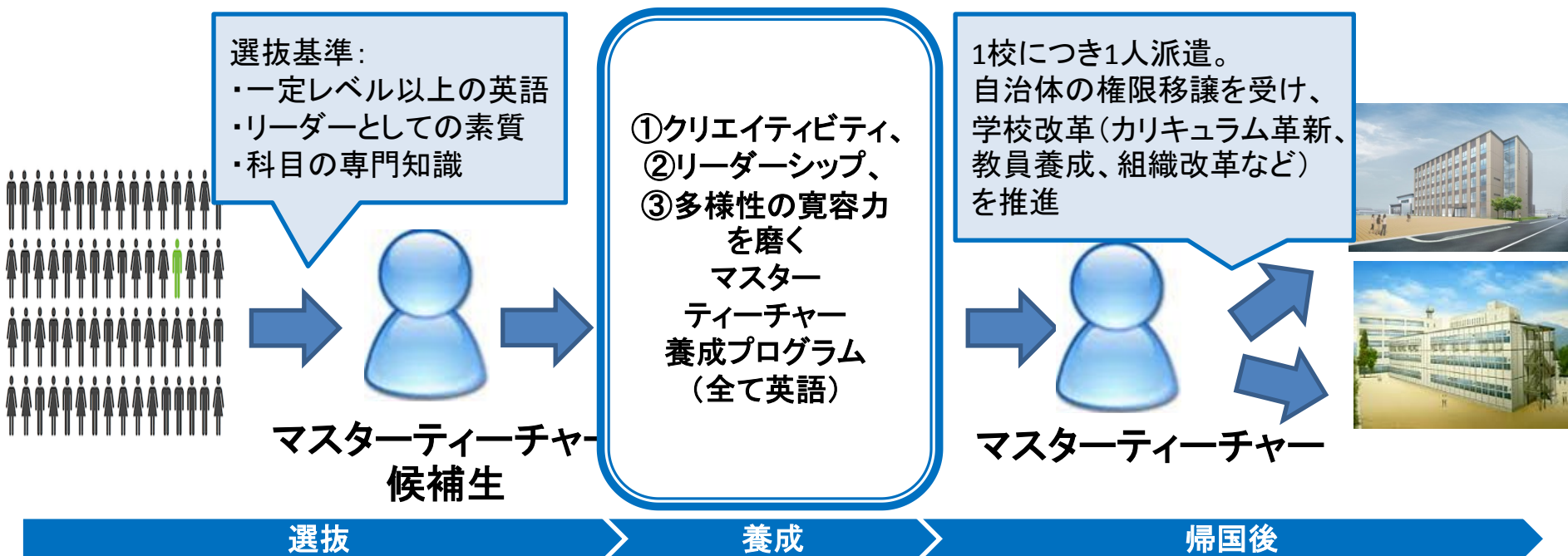
- ・外国人教員への教員免許状授与の難しさ

- ・教員の有給休暇の少なさ

長期休暇の長さは教職の一番の魅力であり、研究者・学習者として成長し続けるために必要という声が多い。

- ・外国人教員の家族を受け入れる環境

提言②: <中長期> 日本国内から人を募り 「マスターティーチャー」を養成



ご参考:予算規模

100人 x 4,000,000円 x 1年間 x 5サイクル = 4億円 x 5年間

- ①5年間にわたり合計500人を養成 (算出根拠は注釈参照)
- ②成果測定してから大規模に拡大していく
- ③プログラム内容を競わせるために複数の大学・国と組んでみる

前提:

- ・高校は全国に5,000校(国立、私立、公立の合計)
- ・高校教員数:23万人の2.5%=5,000人。その10%である500人を5年間で派遣。
- ・派遣先は当初は世界の4つの大学に毎年25人ずつ。
- ・帰国後の各学校での成果を数年検証。効果があがった上位のプログラム/大学に継続的に派遣。

(参考)プログラム内容イメージ

- 方針:「学ぶことを研究することを学ぶ」:教員へ研究者としてのマインドセットとトレーニングを
- プログラム内容:【理論】リーダーシップ学 (組織リーダーシップ、学級経営)、発達学、脳科学、生徒の多様な学習スタイルやニーズに合わせた教授法の実践
- 【実践】海外のトップスクールでの教員研修、若しくは、修士課程
- 講義は実践を助けるための理論という位置づけ。実践を助けるための理論。

※2010年に出来たハーバードの教育リーダーシッププログラムの博士号(ビジネス・教育・公共政策大学院の共同プログラム):学費は年間38000ドル。

<http://news.harvard.edu/gazette/story/2009/09/harvard-university-to-offer-groundbreaking-doctoral-program-for-education-leaders/>

ご検討宜しくお願いいたします！



参考資料



なぜ「高校の教員」か？

1. なぜ大学ではないか

- 大学は既に優秀な人材がいる/集まりつつある
- 寧ろガバナンス、入試、学期制などの改革が課題

2. なぜ小中ではないか

- 日本の初等教育は世界的にも評価が高い
- 母国語教育や義務教育の大切さ

なぜ「高校の教員」か？（続）

大学教授

平均年収：1,081万円

平均月収：65万円
(平均時給：4,129円)

ボーナス：298万円

高校教員

平均年収：690万円(全体)

平均月収：42万円
(平均時給：2,565円)

ボーナス：173万円

参考：厚生労働省「賃金構造基本統計調査、平成24年。全国平均。

高校教員の待遇は、大学教員に比べて低く、優秀な人材が集まりづらい？

日本の先生の給料は右肩下がり

Table D3.4. **Trends in teachers' salaries between 2000 and 2011**

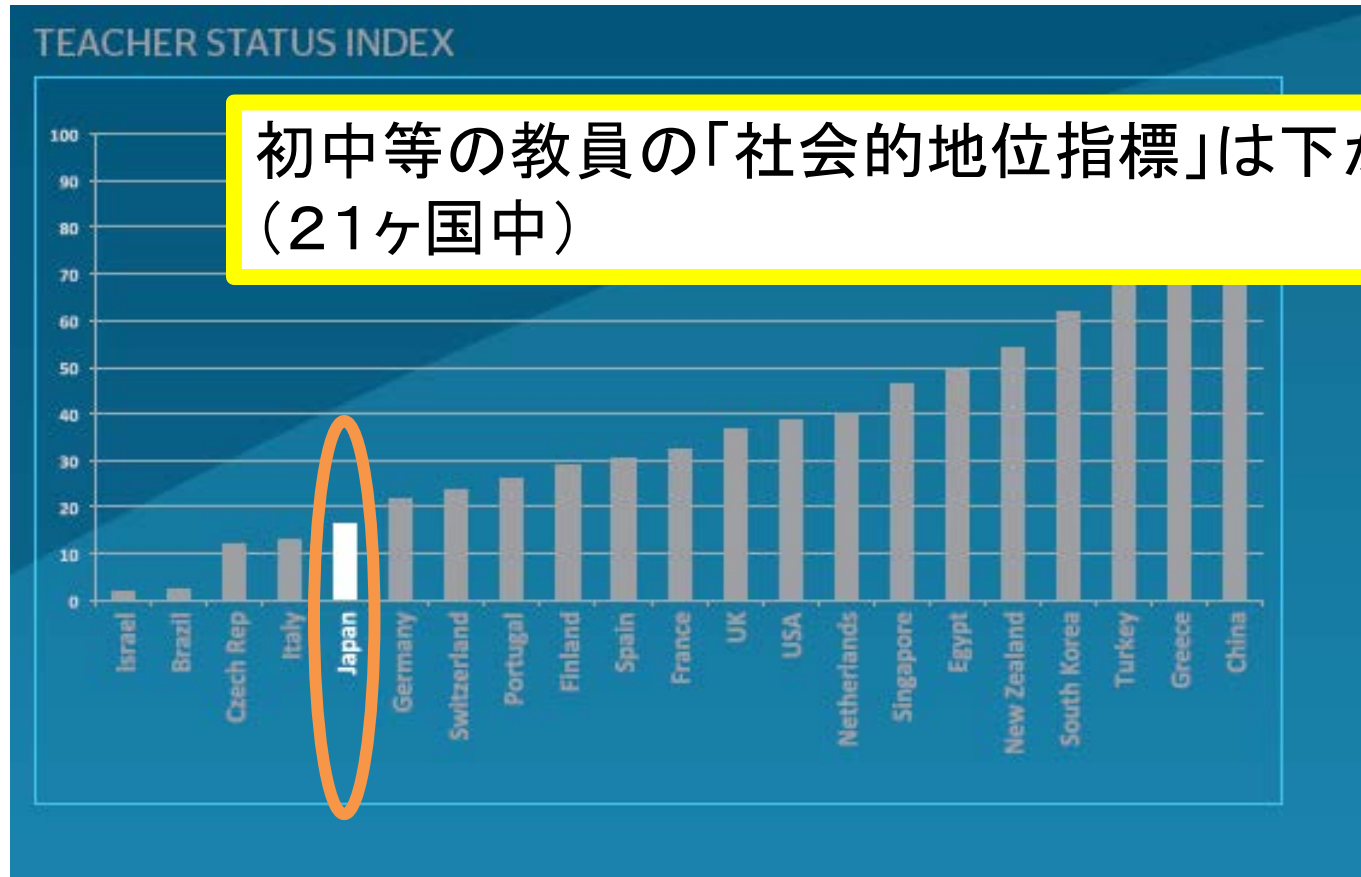
Index of change in statutory teachers' salaries for teachers with 15 years of experience and minimum training (2000 = 100), by level of education, converted to constant prices using deflators for private consumption

	Primary level								Lower secondary level								Upper secondary level							
	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2000	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)
Japan	100	99	99	95	92	93	92	91	100	99	99	95	92	93	92	91	100	99	99	95	92	92	92	91
OECD average	100	116	117	118	120	123	122	120	100	113	114	115	116	119	117	116	100	115	115	117	118	120	119	117
OECD average for countries with data available for all reference years	100	116	117	119	120	123	122	121	100	113	114	115	116	119	117	116	100	115	115	117	118	120	119	117
EU21 average for countries with data available for all reference years	100	118	119	122	122	126	124	121	100	117	118	121	121	125	123	121	100	115	115	118	119	122	120	118

参考: OECD. *Education at a Glance 2013*. (392)

2006年の骨太方針をうけて教員給与を引き下げることが決定した結果

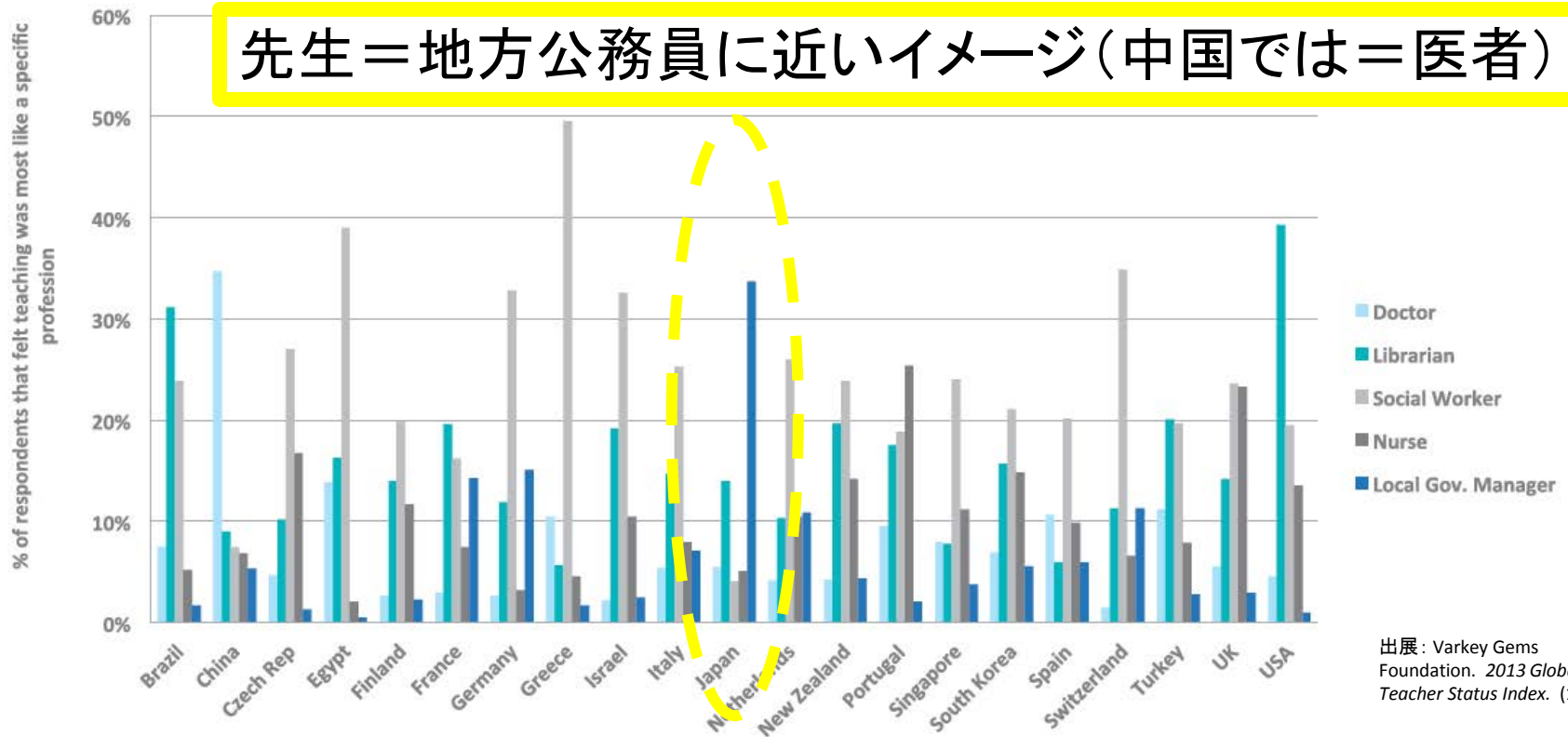
日本の先生の社会的地位(1)



出展:
Varkey Gems Foundation.
2013 Global Teacher
Status Index. (39)

日本の先生の社会的地位(2)

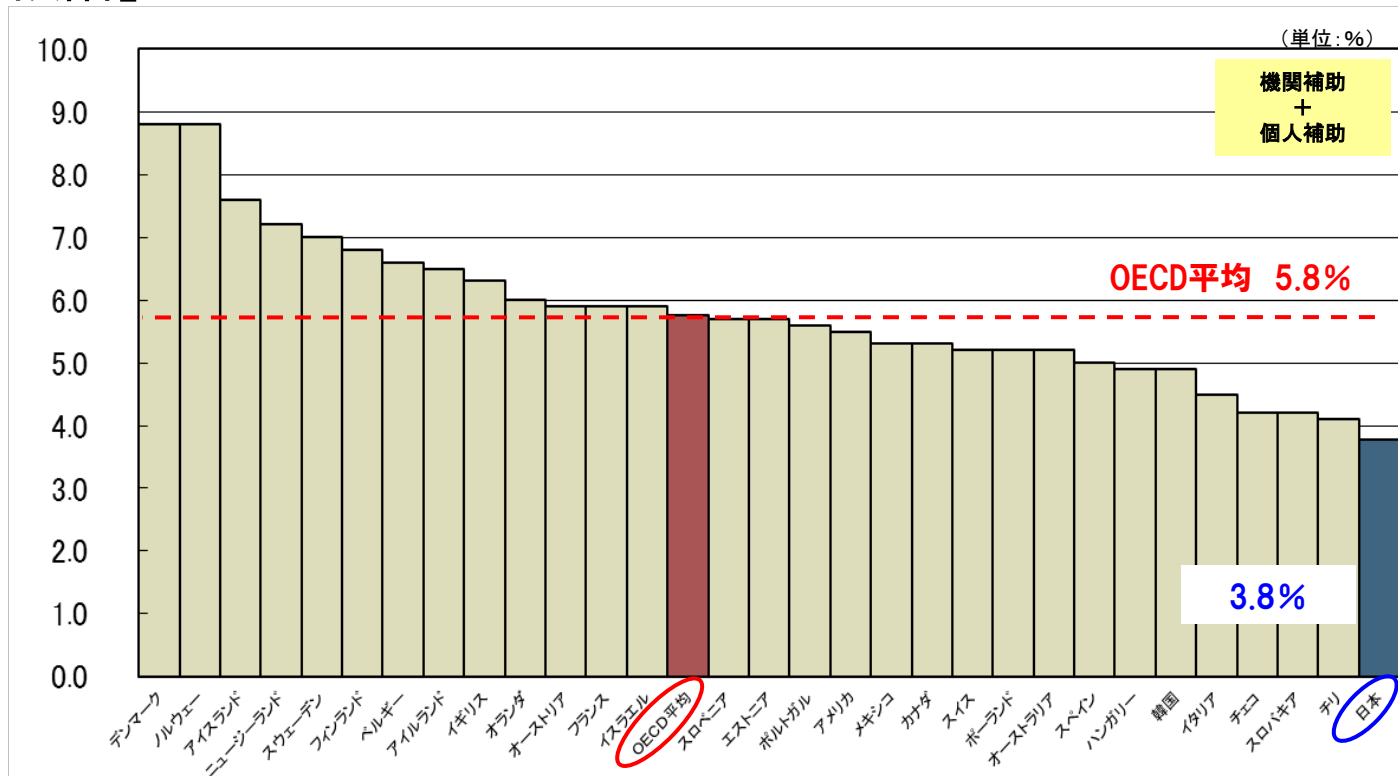
Figure 6: Teachers' social status compared to doctors, librarians, social workers, nurses and local government managers as a percentage of professions considered most similar



公財政教育支出の国際比較(対GDP比(2010年))

○我が国の公財政教育支出の対GDP比は、**いずれの学校段階でも国際的に低い。**

【全教育段階】



(注)機関補助とは、教育機関への公財政支出を指す。一方、個人補助とは、奨学金等の家計・学生への公財政出を指す。

(出典)「図表でみる教育(2013)」(OECD)より作成。

◆全教育段階における経年変化(公財政教育支出、機関補助+個人補助)

(単位:%)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
日本	3.5	3.5	3.4	3.6	3.8	3.8
OECD平均	5.4	5.3	5.2	5.3	5.8	5.8

(出典)OECD『図表でみる教育』各年版

